

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年									2025年									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ～3日	8月 ～10日	8月 ～17日
カンピロバクター	25	57	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	23	36	38	10	8 (9)	2
病原性大腸菌	92	79	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	71	93	78	28	22 (24)	4
腸管出血性大腸菌	0	1	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	2	3	3	0	0	1
サルモネラ	7	5	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	6	11	12	2	0	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	4	12	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	9	16	8	5	3 (6)	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	6	3	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	9	11	5	2	2 (4)	0
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	1	1	2	0	0	0
ロタウイルス	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0
ノロウイルス	3	4	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	6	2	2	0	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報 令和7年第33週(8月11日～8月17日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	1	2			2	1	1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2							2
四類	3	日本紅斑熱	2			1				1
		レジオネラ症	1	1						
	68	梅毒	1					1		
		百日咳	67	10	19	9	1	14	3	11

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部 … 三次市、庄原市● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年33週(8月11日～8月17日)

■コメント

1 マイコプラズマ肺炎

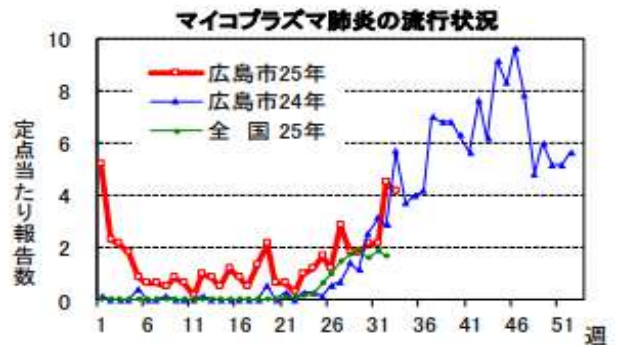
定点当たり4.17人の報告がありました。過去最大の流行となった昨年は、夏から増加し、11月頃にピークとなったため、引き続き注意が必要です。主な症状は、発熱や全身の倦怠感(だるさ)、頭痛、咳などで、咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり2.31人の報告がありました。手洗いの励行、咳エチケット、換気などの感染予防対策を心がけましょう。

3 百日咳

今年の累計は770件となりました。感染経路は、飛沫感染と接触感染です。7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて発作性の咳となります。乳児期早期では特徴的な咳がなく、無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止に至ることがあります。合併症としては肺炎や脳症などがあり、特に乳児では注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
A R I	急性呼吸器感染症(ARI)	500	19.23			小児科	突発性発しん	2	0.14	0.17	
	インフルエンザ	2	0.08	0.13			ヘルパンギーナ	2	0.14	0.22	
	新型コロナ(COVID-19)	60	2.31				流行性耳下腺炎	1	0.07	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	4	0.29	1.11		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	-	-	0.18			流行性角結膜炎	7	1.17	0.28	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.93	0.62		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	31	2.21	1.65			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	3	0.21	0.08			マイコプラズマ肺炎	25	4.17	1.14	
	手足口病	5	0.36	1.71			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	27	1.93	-			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 → 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ⇐ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	26
小児科定点数	14
眼科定点数	6
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第33週)は、お盆の休診により、報告数が影響を受けている可能性があり、前週(第32週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	79	20歳代・推定感染地域: 国外、90歳代
5	梅毒	1	88	70歳代
5	百日咳	14	770	10歳未満・7人、10歳代・6人、30歳代・1人